

中川村議会 令和6年3月定例会一般質問（3／11）片桐邦俊

○1 番 (片桐 邦俊) おはようございます。(一同「おはようございます」)

私の一般質問に入ります前をお願いをさせていただきたいと思っております。

私は、昨年末より体調を崩しまして、難聴傾向が現在も続いておりまして、お答えいただける方については少し大きな声で発言いただきますようお願いしたいというように思います。よろしくお願ひいたします。

それでは質問に入りたいと思います。

私は、さきに通告いたしました2問について質問をいたします。

「近隣町村との公共交通の連携について」ということであります。

全国では、タクシー運転手不足等から、一般のドライバーが自家用車を使って有料で人を運ぶライドシェアが、タクシー会社が運行管理を行うことを条件に地域等を限定して4月から導入されることになっております。

特に、今後何もしなかったら地方都市や中山間地域では鉄道、バスの運転手不足もあり交通崩壊が起きると指摘されており、地域の移動手段としての公共交通確保は各自治体で重要課題になっていると思われまます。

中川村では巡回バスとデマンドタクシーチョイソコという公共交通体制が現在ではできているわけですが、昨年10月に開催されました中部伊那町村議会協議会では、4町村の連携に関する分科会において公共交通の連携について討議いたしました。

趣旨は、松川町、中川村においてはデマンドタクシーチョイソコによる乗り合い送迎サービスが開始されており、この送迎サービスを飯島町、大鹿村でも公共交通として検討してもらい、足並みがそろえば相互乗り入れ等を検討したいというものでいた。

そのときの内容も踏まえて中川村の今後の公共交通についての考え方を伺いたいと思ひます。

バス、タクシーの運転手は、高齢化、若手の入社が減っており、今後も運転手確保が厳しい状況と考えておりますが、中川村の現在の公共交通である巡回バス、デマンドタクシーチョイソコは将来にわたって継続することが必要であり、現在のドライバーさんがいつまで働いていただけるかが課題だというように私は考えております。

今後に向けてのドライバー確保を村としてどのように考えていらっしゃるのか伺ひたいと思ひます。

○地域政策課長 それでは今の御質問に対してのお答えをさせていただきたいと思ひます。

現在、村の巡回バス、チョイソコの運転手は、会計年度任用職員として5名おりまして、朝夕のスクールバス及び高校生が利用中心の通学バス3路線の運転業務と昼間のチョイソコの運転を行っております。

シフトの関係から南周子線の一部をバス事業者へ運行委託している日もあります。

現在の運転手の年齢構成であります。70歳代が2人、60歳代が1人、50歳代が2人となっております。

4月——来月であります。4月の新年度からは60歳代前半の方がお一人常勤対応で入りまして、通常シフトには70歳代前半の方が1人、60歳代の方が2人、50歳代の方が2人となります。

中川村議会 令和6年3月定例会一般質問（3／11）片桐邦俊

急な対応には、バス運転は3人、チョイソコにはプラス2人の有資格者の職員が対応できるようになっておりまして、今のところ運行に大きな支障はないものの、随時運転手の確保は今後も続けていきたいと、そう思っております。

○1 番 (片桐 邦俊) 今お伺ひしました。70歳代の方が1人お辞めになって、今度は60歳代の方がまた1人入るといふような状況のようでありまして、いずれにいたしましてもドライバーさんの若返りということがやっぱり大切だと思っておりますので、そんな部分でも、今後、いわゆるドライバーの後継者確保をぜひお願いしておきたいというように考えておりますので、よろしくお願ひいたします。

続いてライドシェアについてでありますけれども、ライドシェアについては、実は、以前、議会の厚生文教委員会の視察研修で交通空白地有償運送という制度を活用してウーバーの配車用アプリを利用し住民の足として活躍するささえあい交通を展開しております京丹後市のNPO法人を視察させていただいた経過があります。

村の公共交通会議にはタクシー会社も入っておるといふように考えておりますけれども、そんな中でライドシェアについて話が出た経過があれば、どのような意見が出ているのかをお伺ひしたいというように思っております。

○地域政策課長 先月——令和6年2月14日に村の公共交通会議を開催したところでありますが、県からは公共交通の担当者、また公共交通会議の委員となっております近隣のタクシー業者3事業者の方も参加しての会議でありましたが、この中でライドシェアの話は出ておりません。

県からは、御存じのとおり、県の公共交通計画の概要と、特に長野市への高速バスみずずハイウェイバスの路線維持のための県補助金の確保等についてのお話があっただけで、議員のおっしゃるライドシェアの話は出なかったということでもあります。

○1 番 (片桐 邦俊) なぜこのような質問をしたかといいますと、中川村はデマンドタクシーを導入しておりますけれども、将来に向けて村としてのライドシェア導入の可能性を確認したかったわけでありまして。

ぜひ今後もライドシェアの全国での情報収集というものは少ししておいたほうがいいのではないかなというように思っております。

と申し上げますのは、さきの質問で申し上げましたけれども、ドライバー確保という部分の中では、いわゆる自家用車を使って対応ができるということも含めて、一般の住民の方々も十分対応ができる公共交通であろうかというように思っております。

ですから、今後はこんな部分の検討というものも一つにはしておくべきと、基本的にはデマンドタクシーのチョイソコを続けていくというのが基本だと思っておりますけれども、そんなこともぜひ情報収集として行っていただければというふうにも思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

続いて参ります。

現在中川村で利用しているデマンドタクシーチョイソコのコールセンターは、全国で利用自治体が増え、つながりにくい状況が出ているようで、今後は村独自のコールセンターでの直接予約を検討したいという関係部署からのお話を聞いておりますけれども、

ども、将来、近隣町村がデマンドタクシーチョイソコで足並みがそろった場合、村として連携についてどう考えるのか伺いたいと思っております。

特に、現在も松川町のチョイソコはタクシー会社へ業務委託をしております、中川村とはコールセンターが違う状況にあるため連携は厳しいという話も聞いておりますけれども、今後のそんな部分を含めてのお考えをお伺いしたいというふうに思います。

○地域政策課長

現在チョイソコを運行している自治体、地域は全国で71か所——71地域で、そのうち中川村のようにコールセンター業務を委託しているのは50か所とのことであります。

午前中、特に朝にはコールセンターへつながりにくいという声も聞いております。こうした問題を受けまして、コールセンターを担っておりますアイシンのコールセンターでは3月からコールセンターの職員を増員して対応を行っているとのことですが、これにつきましては状況確認を進めてまいりたいと思っております。

将来的には、現在のシステムを使いつつ、コールセンターは自前で運営していくことも検討していきたいということではありますが、予約につきましては直接のコールセンターへの電話よりもスマートフォン等からの予約のほうが空き時間も確認できることから、DXの推進を兼ねて高齢者向けのスマートフォン教室の継続開催やチョイソコのインターネット予約の普及にも取り組んでいきたいと考えております。

近隣町村との連携であります、全国的に見れば複数の市町村で広域的にデマンドタクシーを運行しているところもありまして、制度上は可能と考えておりますので、これについては研究をしていきたいと考えております。

ただし、中川村は村内に交通事業者がなく自前での公共交通の運営を行っておりますが、バス・タクシー業者があります町村の場合には調整が必要となりますので、いかに近隣との乗り継ぎがスムーズにでき、村外の目的地に行けるかが現実的な連携になっていくのではないかとというふうに考えております。

○1 番

（片桐 邦俊） 今お話をお伺いしましたけれども、一応、全国的に捉えた場合にも連携はできるっていいですか、チョイソコに関しては乗り入れ等も可能だという話でありますので、次の項目でちょっと質問させていただきますけれども、ぜひそんなことも見据えた検討をしていただければなというように思っております。

ただ、先ほどお話があったとおり、電話がコールセンターにつながりにくいという形の中では、スマホを利用してっていいことではあります、高齢者向けのスマホの講習等もやられるという話があったわけでありまして、やはり高齢者になりますとなかなかスマホを使い切れる方も少ないと思いますので、ぜひそんなことも含めてコールセンターのことは今後も考えていっていただければというように思っております。よろしくお願ひします。

次の質問になりますけれども、4町村の分科会討議の中では、飯島町、大鹿村につきましてはすぐにデマンドタクシー導入という形にはならないという状況のようであります。現状の各町村の公共交通の状況で連携が取れないか検討するということは、

各町村ともに賛成、よいだろうというまとめに分科会ではなかったわけでありまして。

今回につきましては中川村議会のほうから提案をさせていただいた内容でありましたけれども、中川村議会として提案をさせていただいた限りは、連携は検討してもよいだろうというお話になったので、ぜひ、中川村、行政として、窓口っていいですか、率先して他市町村との連携を模索するということができないかと、ぜひそんなことで連携討議は中川村主導で行えないかということをご提案させていただきたいと思っておりますけれども、村の考えをお伺いさせていただきたいというように思っております。

特に、例えば、前にもちょっと私は皆さんに申し上げた経過がありますけれども、飯島町のコミュニティーバスにつきましては、昭和伊南病院行きというものが出ております。

そんなことから、チョイソコで飯島駅まで行って、そこから飯島町のコミュニティーバスを使って病院へ行くというような連携も取れるかなというふうに——これも検討課題だと思っておりますけれども——そんなことも1つの案としてはあるかと思っておりますので、そんなことも含めて分かる範囲内でお答えをいただきたいと思っております。

○地域政策課長

近隣の松川町は同じようなチョイソコのシステムを使っておりますので、これについては、なから内容についても——これまで、松川町さんが始める前にも村のほうに来て公共交通会議を傍聴したりして、そういった形で進めてきておりました。

それで、飯島町からも、かつてはチョイソコのシステムをどういうふうに行っているのかということで問合せがあった経過もございます。

ですので、松川町、飯島町とは、随時情報交換を行いまして、将来的な公共交通の利便性の向上を図れる研究を進めていきたいということでもあります。

飯島町の議員のおっしゃったコミュニティーバスの関係であります、今までは昼間の巡回バスの接続の時間がなかなかうまくコミュニティーバスへの接続時間に合わなかったという点もありますけれども、現在は、今はチョイソコで対応しておりますので、出発する必要な時間に予約をしていただければスムーズな連携が取れるのかなというふうに考えております。

ですので、現実的なほかの町村との連携につきましては、先ほど述べましたように乗り継ぎの連携が考えられるということをお思っております。

以上です。

○1 番

（片桐 邦俊） 今お答えになったとおり、現在の段階をそのままっていいですか、全てデマンドタクシーにならなくても、ぜひ今のコミュニティーバス等を含めて乗り継ぎ等の検討ができればありがたいというように思っております。

特に、前に公共交通のアンケートを取られたと思っておりますけれども、その中では、住民の方からは、やっぱり病院へ行く、病院への直送っていいですか、そういう部分を希望されておるアンケート結果であったというように思っております。

そんな中では、松川町の日赤病院等には直接行けるような状況になっておりますけれども、なかなか昭和伊南総合病院のほうへ直接デマンドタクシーで行くという形に

はなっておりませんので、ぜひそんなことも含めて検討をお願いしておきたいというように思っております。よろしくお願いいたします。

いずれにしても、公共交通につきましては大変重要で、これからも高齢化は必至でありますし、そんな形の中では公共交通というものは大変重要な部分だというように考えておりますので、今後とも住民のための公共交通につきまして検討をしていただければなというように思っておりますので、よろしくお願いいたします。

続いて次の質問に参りますけれども、「子育て支援の一環としてのヤングケアラー支援について」ということであります。

実は、昨年、住民の方から私のところにヤングケアラーの調査を行ったようであるが中川村として具体的な支援策は何かやっているのかという御質問をいただきました。

調べてみますと、調査につきましては、長野県として令和4年9月～10月にかけて小学校、中学校、大学、短大等の577校に対して、約10万8,900人を対象に実施をされたというように思っております。そのうち約7,700名から回答がされ、令和5年2月に長野県ヤングケアラー実態調査結果として報告されたわけです。

ヤングケアラーは、家庭内でのデリケートな問題であること、本人や家族に自覚がないことといった理由から、支援が必要であったとしても表面化しにくい構造となっていると言われております。

アンケート結果では、長野県全体で「世話をしている家族がいる」と回答したのが小学生で11.6%、中学生で6.3%であり、小中学生とも世話をしている家族は「きょうだい」が一番多い結果となっています。

子育て支援は、国、県、また中川村も政策の柱に据えており、誰一人取り残さない支援が必要という観点から、ヤングケアラー支援について伺いたいと思います。

まず、現在、村として把握しているヤングケアラーの状況を伺いたいと思います。

それではヤングケアラーの状況についてお答えします。

まず、ヤングケアラーとは、大人が担うような介護などのケア責任を引き受けて家族の介護や心のケアなどを担っている18歳未満の子どものことを言います。

ケアの内容は千差万別で、行われているケアも家庭環境に違いがあるように様々となっています。

ケアに関わる人は、年齢や立場に関係なく、価値観の違う人間が行っていることなので捉え方もそれぞれです。そのため、表面化されない、本人や家族に自覚がない、このことから状況把握は大変難しく、村としても十分把握ができていないのが現状となっております。

○保健福祉課長

○1 番

（片桐 邦俊） 今伺いましたわけでありまして、ちょっと私が聞いたかったのは長野県ヤングケアラー実態調査についてでありまして、中川村の小中学校3校についてはこのアンケートを実施したのかどうか、万が一実施しているとすればその結果がどうだったのかということを知りたかったんですけども、いかがでしょうか。

○保健福祉課長

この調査は令和4年に実施された調査で、国が都道府県や政令指定都市に促して行われた調査で、全国で15県、5政令指定都市が行っております。

それで、長野県は対象者を小学校5・6年生、中学生、大学生とし、中川村でも小学校、中学校の児童生徒と各学校から返答しております。

調査は、状況を把握し、ヤングケアラーの早期発見と支援等の検討を行うための資料ということの目的で行われておりますので、特に具体的な数字だとか、そのようなものは、ちょっとこちらでは把握できていないというところになっております。

○1 番

（片桐 邦俊） 今のははっきりしたことは状況として把握できておらんというような話だったというふうに考えておりますけれども、実は、さきに教育委員会のほうへちょっと行って伺いをした中では、ヤングケアラーについて教育委員会としては把握しておらんというような話があったわけでありましてけれども、もし、もう少し教育委員会のほうとしてお答えできる部分があればお願いをしたいというように思います。

○教育長

ヤングケアラーの把握についての御質問でございます。

先ほどの県の調査につきましては、やはり細かいところまでの把握はできておりませんが、その調査の結果に基づいてのヤングケアラーにつながるような状況というのは教育委員会としても把握しておりません。

また、教育委員会としてそうしたアンケート形式等の調査は今のところしておりませんが、こうした児童生徒の数そのもの、それと、そういった状況から——教員と児童生徒の関係の近さってというようなところからは、日常の生活の中で子どもたちの生活の変化、そういったところで現状把握をしております。

ただ、ヤングケアラーっていう定義に合うかどうかということ自体をどう判断するかってというのはなかなか難しいわけですけども、子どもたちが現在直面している家族の課題であるとか子どもたちの生活の様子っていうものについては、トータルとして把握して進めているというのが現状であります。

○1 番

（片桐 邦俊） 現状でこういったヤングケアラーの実態と申しますか状況をつかみやすいのは、やっぱり学校の先生方だというふうに思っておりますので、ぜひ、そんな部分では、今後——今もそういう部分では気を遣っていらっしゃるというように思っておりますけれども——さらにヤングケアラーっていうことだけではなくて、後ほど申し上げますけど、やはり困っている子どもがいるという中では、そういった把握をしっかりしておいていただければなというように思っております。

次の質問ですけれども、今現在、ヤングケアラーという定義の中では確認、把握ができておらんということでありましたけれども、中川村として考えているというか、もし行っているヤングケアラーに対するような決まった支援策があれば伺いたいんですけども、お願いをしたいと思います。

○保健福祉課長

それでは支援に関しましてですが、子どもが家族の世話や心のケア、例えば両親が共働きであるため幼い兄弟の世話や障害のある親の支援などを担うようになる背景としては、核家族化に伴う家族構成員の減少が影響していると言われております。

先ほど申しましたが、村ではヤングケアラーの状況が十分把握できていないため、支援策も確立できておりませんが、一人一人の児童生徒としっかり向き合い、家庭環境や生活の様子を知った上で、こども家庭センターを中心に教育委員会など関係部署

○1 番

と連携して支援をしていく姿勢で今後は取り組んでいきたいと考えております。
(片桐 邦俊) ヤングケアラーが確認できていないということがあろうかと思えますけれども、今後はそういう方々の状況を確認しながら求めている支援策を考えていくという方向だろうというように考えておりますけれども、ぜひこんな部分をお願いしたいと思えます。

先ほど申したとおり、やはりいち早く状況がつかめるのは学校の先生方だというふうに思っておりますけれども、その総体の支援を考えていくのはやっぱり村、行政のほうだというように考えておりますので、後ほども申し上げますけれども、そんな部分では関係部署との連携という部分をしっかりと進めていただければというように思っておりますので、よろしくお願ひ申し上げたいと思えます。

続いて、県アンケートの結果の中で周囲に期待する支援——今、支援はどんなことをというふうにお話をしましたけれども——周囲に期待する支援としては小中学校ともに「特にない」が一番多かったわけでありまして。あまり支援については期待をしていない——期待をしていないというのはおかしいですね。あまり要望はしていなかったというように思っております。

次いで、その次になったのは「自分のこと、また今の状況について話を聞いてほしい」という意見が多くあったというように見ております。

まずは話を聞いてくれる相談者の存在が重要でありまして、村でも子ども、子育てについては保健福祉課、教育委員会、社会福祉協議会など関係部署が幾つかあると思えますけれども、包括的に受け止めるヤングケアラー相談窓口の明確化と周知が必要と考えますけれども、村の考えをお伺ひしたいと思えます。

○保健福祉課長

ヤングケアラーの相談窓口についてですが、やはり相談窓口の明確化と周知は必要と考えております。

4月からこども家庭センターを設置しますので、相談や支援は、こども家庭センターを中心に、保健福祉課、学校、教育委員会、また社会福祉協議会など、関係部署と連携をして進めていきたいと思えます。

先ほどから議員さんもおっしゃっているとおり、話を聞く相談者っていうのをつくったとしても、全然知らない大人がいたとしても、なかなか子どもたちは自分の心のことをしゃべるというまでに相当時間がかかります。ですので、少しずつ関係性をつくってから一人一人に合った相談等が必要になってきます。

すぐにはいかないとしても、先ほども言うておりますように、やはり一人一人の児童生徒としっかり向き合って進めていくということがヤングケアラーの支援にはとても大切になってきますので、そのようなところで進めていきたいと考えております。

○1 番

(片桐 邦俊) 今お答えいただきました。

子ども相談室的な部分も含めて、今度の子ども家庭センターですか、にそういった機能もぜひ持たせてほしいなというように思っております。これにつきましては、ヤングケアラーに限らず、子どもの話、悩みも聞けるようなセンターであってほしいな

というように考えておりますので、そんな部分は十分考慮いただいております。
また、さきに申し上げたのとおり、この話については住民の方から私に質問があったわけでありまして、その方からの要望についても、そういう面では、子ども・子育て支援で今行っておる産前産後の配食サービス、こんな部分もぜひヤングケアラーの支援策等に考えておいていただければありがたいという話がありましたが、そんなことも含めてちょっとお答えいただければありがたいと思えます。

続いて、村では、これから第3期中川村子ども・子育て支援事業計画策定に向けたアンケート調査が実施されますが、結果については関係部署でしっかりと共有をお願いしたいと思っております。

特にヤングケアラーを取り巻く環境は多種多様でありますし、先ほど保健福祉課長が申されたとおり、画一的な支援ではなく、その家庭に合った支援につなげることが必要というように言われております。

今後の中川村としてのヤングケアラーに対する支援について、再度でありますけれども伺いたいというように思っております。

実は、さきに申し上げたとおり、この話については住民の方から私に質問があったわけでありまして、その方からの要望についても、そういう面では、子ども・子育て支援で今行っておる産前産後の配食サービス、こんな部分もぜひヤングケアラーの支援策等に考えておいていただければありがたいという話がありましたが、そんなことも含めてちょっとお答えいただければありがたいと思えます。

○保健福祉課長

現在、小学5年生から25歳までを対象に暮らしについてのアンケート調査を行っております。その中の設問の一つに「兄弟、姉妹などの世話や家族の介護などをどのくらいしているか」というのがあります。今回の調査結果は関係する部署で共有して支援策に役立てていきたいと思っております。

また、今後は、ヤングケアラーとなる子どもの家庭環境に対する支援を強化できるようリスク管理し、こども家庭センターを中心に保健福祉課、学校、教育委員会や社会福祉協議会、また地域の皆さんと連携してヤングケアラーとなる子どもを増やさない、予防することができるように働きかけていきたいと考えております。

また、議員さんのおっしゃいました配食サービスや、あとはヘルパーも子育て世帯のほうへ現在は行っております。こちらのほうは、やはり少し、ちょっとしたようなところでも、そのようなちょっと変わったようなところを見てきてくださいというような内容も込めて、このような事業を行っております。

それで、今は3歳未満までの家庭のみとなっておりますが、必要によっては、もう少し大きい、中学生ぐらいまでの家庭で必要があるような家庭には、配食サービス、またヘルパーなどを拡大していきたいと考えてはおります。そのような状況から、早い段階でそれぞれの支援が必要な家庭をこちらのほうでもつかんで支援をしていけたらと考えておりますので、また地域の皆さんとも連携をしながらやっていきたいと思えます。

○1 番

(片桐 邦俊) 今お答えいただきました。ぜひお願いをしたいと思えますが、中川村は子育て家庭を全力で応援するというので、他市町村と比べて積極的な支援策を行っているというように思っております。

ヤングケアラーのみでなく、さきに申し上げましたけれども、誰一人取り残さないよう、関係部署として子どもに対する支援をお願い申し上げまして、私の一般質問を

中川村議会 令和6年3月定例会一般質問（3／11）片桐邦俊

終わりたいと思います。